



第4会場●4F 大研修室

■司 会／木原 正博 鹿児島県教育庁熊毛教育事務所指導課 指導主事
山村知笑子 佐賀県立生涯学習センター 企画員

分科会の進め方

10:45~10:50

1 森は海の恋人…落葉広葉樹を3,896本。
～森林ボランティア「ふくの森の会」の15年～

10:50~11:20

乗兼 佑司(山口県下関市) 森林ボランティア「ふくの森の会」 広報担当

「市民と森を元気に」を合い言葉に、2000年1月に市役所OB、木材関係者、登山愛好家などが中心となって設立。活動は、植樹、山林整備、炭焼き、昆虫観察、バードウォッチング、茸や野菜の栽培など多岐に渡る。下関は三方を海に囲まれた「ふぐ」の名産地。豊かな海は豊かな森が育てる。会の名称もそこから来ている。そして森づくりは、環境学習やボランティアを育てる人づくりになって行った。活動場所は「内日ダム湖畔のふくの森」、国立公園「火の山」、「巖流島」、など。15周年が過ぎて、「ふくの森」には3,869本を植樹、豊かな森となっている。

2 子どもの「遊び特区」を創り、「ふるさと愛」を育む

11:25~11:55

嶋立 輝行(福岡県鞍手町) 「遊びの森クラブ」 代表

クラブが目指しているのは、小規模校の特性を生かし、小学校区をまるごと「あそび特区」にし、みんなで遊ぶことを通して、子どもたちに「ふるさと愛」を育むことである。「遊びの森」活動は定例的に月1回。活動の歴史は5年、活動の核は「7人のおっさん」。寺の裏山にログハウスやデッキのある遊び場を作り、小学生、保育園児に呼びかけ、彼らのあそびを通して保護者や高齢者を巻き込み、過疎に歯止めをかけ、地域の「風」を変えようとして来た。住民の参加が増え、コミュニケーションが強化され、子どもの成長を支える集団が育っている。

3 県立施設—市町行政—公民館等が協働する「課題解決支援講座」による地域づくり
～「課題解決」は何が課題だったのか?～

12:00~12:30

北村 恵理子(佐賀県佐賀市) 佐賀県立生涯学習センター(アバンセ) 企画主任

アバンセと市町行政と公民館との協働を前提とした地域の「課題解決支援講座」である。企画の段階から3者の話し合いによる共同立案の形をとっている。平成24年度は5事業、25～26年度はそれぞれ3事業ずつ実施した。「講義—グループワーク—実践—ふりかえり」と展開し、それがひいては「高齢者の居場所」、「自治防災組織」の立ち上げ、「人材バンク」の創設等につながった。個別地域がそれぞれ具体的な地域課題を掘り起し、実践につなげることで、地域住民の自ら考える力(教育力)を引き出し、コミュニティを活性化することを目標としている。